

活動報告

合宿への思い！

一緒に経験した仲間

兵庫頸髄損傷者連絡会 島本 卓

1. はじめに

初めて、しあわせの村体験合宿（以下、合宿）のことを知ったのも、兵庫頸損の先輩からのラブコールだ。「合宿に参加どう？」と連絡をもらったのがきっかけ。お誘いの電話が2011年のドラフト指名のように感じたのは私だけだろうか。電話を切って「まさかの俺」と驚いた。重度障害者がどうやったら宿泊できるんだろうって思いましたから。怖さのあまり介助者さんがいないのを理由に不参加を伝えたいんですよ。

そして来年の指名を待つことに。

2011年の指名への思いは熱かった。先輩が「介助者さんがいたらどうかな？」と言われた時に参加を決意する。学生ボランティアさんを紹介してもらい合宿に挑んだのも、この時が初めてなのです。受傷後、初めての宿泊に不安よりも恐怖に押しつぶされていたことも、今となってはいい思い出。だって、ヘルパーさんと家族以外の方に介助をしてもらった経験がなかったんです。みなさんも同じですよ。

緊張のあまり「尿が出ないよ！事件」勃発やべえと声に出したことを、合宿に向かうバスの中で毎回のように思い出します。当時、私のサポートをしてくださった学生さんが「不安なことがあったら、いつでも言ってください」その時の言葉に何度も助けてもらいました。

あの時に合宿を経験をすることができていなければ、今も重度障害者の宿泊は無理だと思いつけていたと思います。私にとって合宿とは「自分らしさ」を見つけることができる場であると思います。私の「今」に生きています！

その思いを持って、2015年の合宿を企画しましたので、みなさんに報告したいと思います。

よろしく願いいたします。

2. 今までと違う合宿へ。

今年から取り入れたのが「グループルーム」だ。

6人対応の条件に、合宿への思いが膨らんだ。グループルームを取り入れた狙いは、普段から他の方の介助内容や工夫を聞くことはあると思いますが、実際に介助している様子を見る機会はないので、この機会に持ちたいと思ったのと、参加者の方が工夫をされていることからの新たな発見や情報交換の場にしようと考えました。

今回は車いす7名、介助者2名、一般1名、学生さん9名の19名での合宿。



集合写真

2名の初参加の方も含めて、5名の参加者が学生さんの介助で合宿に参加することができました。自分の必要な介助を考え、伝えながら学生さんと一緒に合宿を経験してもらえらる機会なのだ。

夜の車いすからベッドへの移乗は、学生さんも最初は緊張していました。介助者Sさんの指示もあったおかげで「誰がどこを持つのか」、「ベッドの位置」などの的確な判断で学生さんの緊張を和らげてくれました。感謝です！

学生さんの覚えてくれる早さには驚きました。移乗の回数をこなしていくにつれて「もう少し、こうしよう」、「こっちから補助をして」、「足先は大丈夫？」とても心強い。参加者は安心して、おまかせできたと思います。

島本班では、移乗前にベッド上でできる着替えなど、学生さんがどんどん声掛けをしながら確認

をしてくれ、参加者一人につき、学生さん一人が担当で準備。二人介助が必要な時も学生さん同士で相談しながらやってくれました。

ベッド上での準備が終わる頃に、男子学生さんがトランスファーに来てくださいました。車いすへの移乗も素早く「すごい」の一言。移乗後も各一人ずつに学生さんが歯磨き、清拭、着替えをしてくれ、準備完了!

合宿終了間際に、ザザぶりの雨!みんなの合宿への思いが通じたんでしょうね。雨は上がり、空には虹がかかっていた。一緒に「不安」を乗り越え、自信へと繋がる経験を一緒にできたと思います。私達は、学生さんが「一人の支援者」であることを忘れてはいけません。

3. こんなことが

私は、20日の朝8時に家を出た。最寄り駅から初参加者のKさんが待つ住道駅に1人で向かいました。電車内では、当日の流れを整理しながら、山の天候も気になるばかり。今年は、食材や炭まで持ち込んでの計画を立てたのも私である。事前購入できる物もありましたが、大半が当日購入しなければ、雨天中止もある。両親に買うものを伝えて、車で現地まで届けてもらいました。梅雨時期のバーベキューは、これからは考えなくてはいけません。島本の段取りの悪さが目立ち「なんてこった」と思いました。参加者みなさま方の協力のおかげです。楽しいバーベキュー交流会になりました。私は、「真っ白に燃え尽きそう」だった。



楽しくて最高の笑顔に!

宿泊に向けて、移乗用リフター「トラベルトラック」を持ち込みましたが、部屋の大きさやベッ

ドを動かせる範囲も少なく「いざ、トランスファー」に変更。参加者1名だけが、トラベルトラックを使っての移乗になりました。私事ではありますが「簡易式エアーマット」を持っていったのですが、自宅で使っているベッドに合わせてシングルサイズを購入していた。宿舎はダブルだった。何もかも私の確認がもっとできていればと、思い返せばきりがありません。

兵庫メンバーの山本さん、学生Yさん、学生Uさんが初参加のTさんを自宅まで。私と学生HさんとでKさんを送ろうと計画をしていたのですが、一般参加のHさんから「あとは大丈夫ですよ!」の言葉に甘えさせてもらいました。

私と学生Hさんとで明石駅へ戻る時に起きた「驚き」の出来事とは・・・三ノ宮駅で切符を購入。駅員さんにスロープの手配を伝えてからの案内を待っていたのですが「なんと1時間」忘れられていたんです。まさか最後まで、こんなことが起きるとは考えもしませんでした(笑)明石駅で山本さん、学生Yさん、学生Hさんに「お疲れ様でした」と伝えて帰路へ。一人電車にゆられながらではありましたが、車内は私だけの貸切状態で最寄り駅に到着しました。

5. まとめ

重度障害者でチャレンジをする前に「不可能」と諦めてしまっている方は多いと思います。不可能かどうかはやってみなければわからないことばかりです。参加者が「何に対して不安に思い」「どんな情報を必要としているのか」を聞き一緒に考えながら、これからの合宿を企画していくことが重要であること。夢を持ち続け、夢を語る当事者との出会いを楽しみにしている。人として「楽しみを求め」外へ出る。一步を踏み出せば「人との出会い」そこには「自分の役割」が必ず存在しているはずである。

私が思うことは「自分らしさ」を持つことである。失敗を恐れることもない「ひとりじゃない」んだからと伝えたい。

参加者の皆さん、学生支援者のみなさん、本当にありがとうございました。